

iMIX

INSTALLATION MANUAL & USER'S GUIDE

L.R. Baggs

エルアールバッグス製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。iMIX は iBEAM と Element を完全独立 A 級プリアンプを介してミックスすることの出来るステレオミキサーです。サウンドホールに取り付けるボリューム/ミックス・コントロールとバッテリー・バッグが付属します。取付けに際しては経験のある専門のお店またはリペアマンにご相談下さい。取付けミスに起因するギター本体のダメージ、iMIX の故障、ケガ等については当社は一切責任は負いません。又商品の保証も効かなくなります。

▲従来よりレコーディングでアコースティックギターのサウンドを録音する時は、ギターのサウンドホール近くにマイクを立てるオンマイクと、1~2m 離してセットするオフマイクで2つの音をミックスしてサウンド創りをするのが一般的です。▲前者はよりダイレクトなサウンドを、後者は自然な残響であるエアー感を得るためです。▲ライブ時にこの考え方を応用して同様の効果を得るためのシステムがデュアルソースとアイミックスです。▲エルアールバッグスは 1990 年代初頭よりこの点に着目し、リアルなサウンドをライブ時でも容易に可能とするシステムをご提供しています。

パッケージ内容

●1x iMIX Preamp ●1x ステレオジャック ●1x iBEAM ピックアップ ●1x iBEAM 取付用治具 (Nylon 用には付属しません) ●1x Element ピックアップ ●1x リモートコントローラー ●1x フラットケーブル (プリアンプとコントローラ接続用) ●1x バッテリー用バッグ ●4x ワイヤークリップ (配線止め用) ●2x 予備の iBEAM 用取付用両面テープ ●1x 006P 9V バッテリー

Element ピックアップの取付け

最初に読んでください

エレメントの最大級のパフォーマンスの為に、サドル溝にきれいな平面が出ていることを確認してください。また、サドル溝の深さは最低 3mm 必要ですが、サドルの極端な前傾を防ぐために、少なくとも 4.5mm 程度の深さを推奨します。

ご注意

エレメントピックアップは先端の数ミリ部分は感度が微小のため、サドル幅の狭いモデルの場合、音量バランスがうまく取れない場合があります。この様な場合にはサドル溝両端に同じ穴を開けてタスキ掛けの状態にすると良いでしょう。(図 1)

ブリッジ表面から見えるサドルの高さがブリッジ下に隠れているサドルの深さを超えないようにしてください。ピックアップのバランスと出力が低下する恐れがあります。サドル溝の床面に傷を付けないように穴を開けるには小さなドライバー等を使ってドリルがサドル溝の床面に当たらないように注意してください。(図 2・図 3)

取付け

1. ギターから弦とブリッジサドルを取り外します。
2. ギターの内側からプレーシングの位置を確認し、サドル溝に合ったドリルを使い、1 弦側か 6 弦側のどちらかからプレーシングを傷つけないように穴を開け (図 4・図 5)、掃除機・エアーダスターなどで木屑を掃除して置いてください (重要: サドルを載せた際にピックアップが鋭角に曲がらないように穴の内側を丸ヤスリなどを使って丸めてください)。
3. 次にピックアップをギターの内側から先ほど開けた穴に通します。このとき、爪楊枝などを外側から刺してガイドにすれば、ピックアップの穴を見つけやすいでしょう。
4. サドルをブリッジに戻し、一旦セットして、鉛筆などでサドルを削る分だけ印をつけます。
5. ベルトサンダーなどを使って大まかに底面を削り、最後の調整は手で行います。この時、紙やすりと台座に正確な底面が出ていることを確認してください。スケールと懐中電灯などの強い発光体を使ってサドル底面の平面を確認すると良いでしょう。(重要: サドルがサドル溝にフィットしていること、サドル溝とサドルの底面両方が正確な平面であることが、ピックアップの取り付けにおいて最重要条件になります。指で無理無くサドルの取り外しが出来るように取り付けますが、そうすると弦を張ったときにサドルがほんの少しナット側に傾きます (図 6)。この傾きを考慮に入れてサドルの底面を加工する必要があります。ただしサドルがきつ過ぎたりゆる過ぎたりすると、この加工は出力バランスと音質に悪影響を与えます。
6. サドルをセットし、一時的にテープなどで固定します。ピックアップからのリード線を付属の配線クリップを使って表甲に当たらないようにプレーシングに固定します (図 7)。これを怠るとボディの振動などでリード線が表甲に当たりピビリ音の原因になります。

図 1

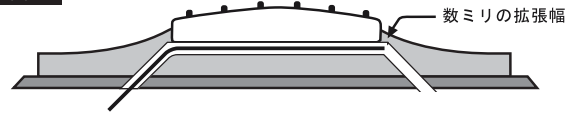


図 2

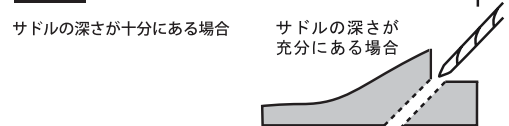


図 3

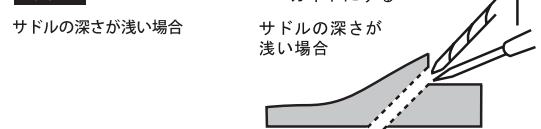


図 4

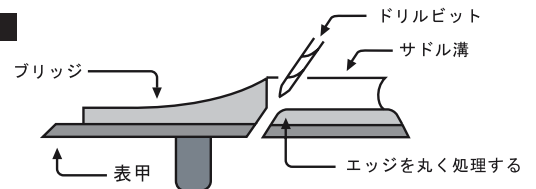


図 5

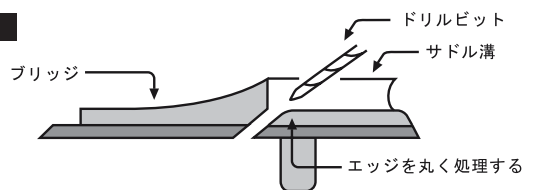
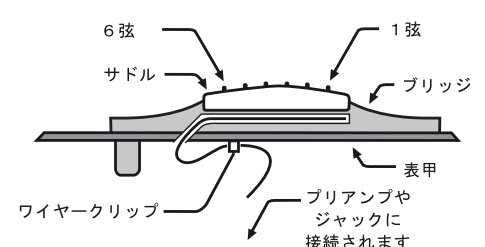


図 6



図 7



iBEAM ピックアップの取付け

重要です・まずお読み下さい

- (1) iBEAM は X- プレーシングのスティール弦ギター用に開発されたピエゾピックアップです。図8の様に平らで十分なスペースが X- プレーシングの間にあることが必要です。Nylon 弦モデルには特別な加工をされた、Classic 用 (5 本のプレーシング用) があります。
- (2) 取付けの治具は通常の弦止めのブリッジピンがあるギターのみで使用可能です。ブリッジピンの無い場合は図9のスペース範囲内に取付けます。
- (3) iBEAM 本体の両側からそれぞれ 1/2 号 (12.5±0.2mm) の辺りに穴がありますがここに何かを入れたりすることが無いようにお願いします。
- (4) iBEAM の取付けは備え付けの両面テープが最適で強力に固定します。これは後で取り外しが可能です。いろいろなテストを経て決定したクオリティを持つタイプなのでこれ以外の両面テープを使用しての動作保証は出来ません。

iBEAM の位置決め

基本的に図9の様に iBEAM をブリッジのサドル位置の裏側の同一位置に取り付けます。ギターの個体差や音質的な微妙な変化を好む場合は取付可能な範囲で任意の場所を設定してください。

いろいろなギターで試した範囲では、サドル位置に取り付けたほうが、弦や表甲の音に忠実なサウンドが得られます。ピックアップ位置をサウンドホール側又はブリッジピン側に設置するとボディ内の音がより強調されミッドレンジがやや抑えられた甘い音になります。色々試した中ではややブリッジピン寄り、1弦側に1mm程度ずらした時の方が良い結果の場合もありました。一度取り付けた後、場所を変えたい場合は交換用の両面テープを使ってください。

取付け：ブリッジピン

- (1) 図11の様に治具を組み立ててください。
- (2) サウンドホールから手を入れブリッジの裏側がきれいな面となっているか確認してください。確認しにくい場合は鏡を入れ念入りにチェックしてください。iBEAM を取り付ける面が平らで汚れや木のささくれなどが無ききれいになっているか十分に確認してください。必要な場合はペーパーをかけてください。
- (3) エンドピン位置にジャック用の穴を開けます。(12.5±0.2mmの径を推奨)
- (4) iBEAM をギターの中に入れ取り付け位置のスペースを確認してください。この時点ではまだ取付はしません。エンドピン・ジャックをギターの中に入れ内側から止めるナットの位置を確認します。ギター外側から止めるワッシャー、ナット等が最適な位置となるよう全体的なバランス位置を確認してから外します。最終的な取付はセットします。
- (5) 図11の様に取付治具をセットし1弦と6弦の位置にセットします。
- (6) プレート上の両面テープの接着面を出します。その後図12の様に iBEAM の接着面上にした状態でサドルの真下又は前述のように意図して若干ずらした位置にセットします。
- (7) iBEAM が治具に乗ったままの状態をブリッジから外し iBEAM 本体の裏の接着面を出します。
- (8) iBEAM 本体と治具を含めた全体をそのままの状態をサウンドホールに入れ1弦と6弦の位置に図13のようにボルトを通します。
- (9) ボルトが出たら両方のボルトを両手で持てるようにします。この時点では iBEAM を固定しません。
- (10) まっすぐ上にゆっくり引っ張り iBEAM を固定します。iBEAM を挟み込むようにしっかりと押さえつけます。
- (11) iBEAM を固定したのを確認してから治具を外します。(出ているピンを軽く叩くと簡単に外れます)
- (12) iBEAM 本体に沿ってしっかりと固定されているか確認します。真ん中だけでなく両サイドもしっかりと固定されているか確認下さい。この時、iBEAM の左右だけでなく前後の固定確認もしてください。

iBEAM の取外し

iBEAM の取付場所を変えるなどで外す場合は下記の点に注意してください。薄い両面テープですが、かなり強力です。時間が経つにつれ強力になってきますので、取付位置を間違えた又は変えたい場合は一週間をメドにしてください。

<取り外し手順>

- ▲まず、しっかりと iBEAM を持ち、サウンドホールに向かって引っ張るように力を加えてください。後ろ側が剥がれてきたら力を逆に入れ、前側が剥がれる様にします。iBEAM の接着にはボディ面がきれいな平面が必要ですので、両面テープの使いまわしはしないで下さい。
- ▲その面がきれいになっているか確認した後、予備の両面テープを取り付けます。
- ▲ギター内に再度取り付ける前に両面テープ面を鉛筆などでなぞり、空気が入らないようにしっかりと密着するよう確認してください。
- ▲再取り付けはこのマニュアルの最初からと同じ要領で行います。

図 8



図 9

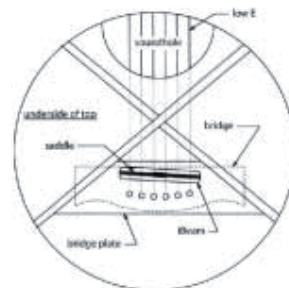


図 10

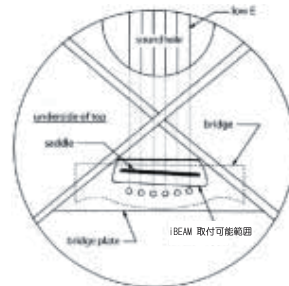


図 11

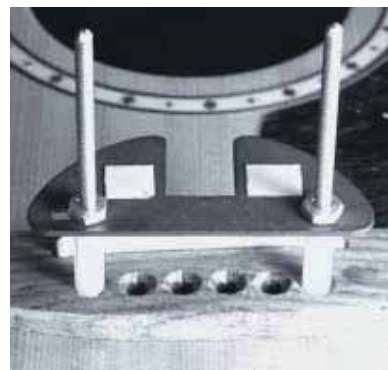


図 12



図 13



iBEAM ゲイン・コントロール

iBEAM と Element の取付けを終えた時点で二つのピックアップのゲインを揃える為、プリアンプ部の右上角に iBEAM にだけ作用するゲイン・コントロールが付いています。両ピックアップのミックスを最適にする為にこのコントロールは不可欠で、調整には小さい『+』のドライバーが必要です。

まず全ての接続が済み電源が入っているか確認し、ミックス・コントロールを Element 側いっぱい回して下さい。通常弾く感じで Element のボリュームをテストし、今度はミックス・コントロールを iBEAM 側いっぱい回し、同じテストを行なってください。この時点で二つのピックアップのボリュームの差を覚えておいてください。

次にゲインの調整をします。iBEAM のゲインを上げるには時計回りに、下げるには時計と逆回りにします。ゲインの調整が済んだらミックス・コントロールでパンしながら両ピックアップのボリュームバランステストを行なってください。

取付終了に当たって

プリアンプの設置: サウンドホールから調整可能な場所を選び、ギター裏甲に取付けてください(図 14) 接着面を綺麗にし、プリアンプ裏の両面テープの紙を剥がし固定します。

リモートコントロールの設置: サウンドホールの端の適切な場所に取付けます。通常は正面から見た際に6弦の左側に来る所が良いでしょう。接着面をきれいにし、コントローラー裏の両面テープの紙をはがし固定します。

バッテリー・バッグの設置: バッテリーとバッテリー・クリップを接続し、バッグの中に入れ、プリアンプの近く、ネックジョイント付近で電池交換のしやすい場所に接着します。バッグのフラップを開けるだけでスムーズな電池交換が出来ます。

ケーブルの固定: 付属のワイヤークリップを使って内部配線を表甲に当たらない様に注意しながらボディサイドなどに固定します。表甲にケーブルが当たると不必要なビビリなどの原因になります。

ユーザーガイド

プリアンプ・コントロール: プリアンプ本体(図 15)の右側に5つのコントロールがあります(iBEAM ゲイン、iBEAM ローカット、iBEAM ミッドカット、Element ミッドカット、ステレオ/モノ)。ゲインコントロールの調整は前セクションで既に触れていますが、残りのコントロールも調整することであなただけのサウンドを得ることが出来ます。調整には精密ドライバーをご使用下さい。

iBEAM ロー・カット: iBEAM の60Hz~640Hz間の周波数を調節する12dB/Octのローカット・コントロールです。ミックス・コントロールが完全に iBEAM 側にパンされていることを確認してから調整してください。

iBEAM ミッド・カット: iBEAM の900Hzあたりの周波数を調節します。時計回りいっぱいではフルにミッドレンジが出力され、逆に9dBのミッド・カットとなります。

Element ミッド・カット: iBEAM ミッド・カットと同じですが、Element のミッドレンジを調節します。ミックスコントロールが Element 側にパンされていることを確認してください。

ステレオ・モノ: モノラル出力かステレオ出力かを決定します。モノ・モードで使用する場合は2つのピックアップがミックスされた状態で出力されます。ステレオ・モードで使用するにはステレオケーブルかステレオ Y ケーブルが必要です(Element が Tip、iBEAM が Ring 側に出力されます)。ステレオモードで通常のモノケーブルを使用すると Element のみが出力されます。レコーディング等の際には Element と iBEAM を別々に録ったり、別々のスピーカーで鳴らしてブレンドしたり、種類の違うエフェクトをチャンネル別に掛けたりといったことが出来ます。

リモートコントロールの使用:

モノ・モードでは『Volume』コントロールは両チャンネルの音量をコントロールし、『MIX』コントロールは全体での両ピックアップのミックスをコントロールします。ネック側に回すと iBEAM が、ブリッジ側に回すと Element が出力されます。12時の位置で同レベルの出力になります。ほとんどの場合、両ピックアップのブレンドが同レベルで最適な結果が得られますが、レコーディングやソロでのパフォーマンスの場合には iBEAM の出力を

ステレオ・モードでは『Volume』コントローラーが Element を、『MIX』コントローラーが iBEAM の出力をコントロールします。

図 14



図 15

